



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月5日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス  
コード番号 7844 URL <http://www.marv.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長 CEO (氏名) 中山 晴喜  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 CFO 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 TEL 03-5769-7447  
四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日  
配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	11,387	18.8	1,449	6.2	1,514	9.3	934	8.6
26年3月期第2四半期	9,585	21.3	1,365	23.5	1,385	35.6	860	33.4

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 942百万円 (8.4%) 26年3月期第2四半期 869百万円 (34.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	17.48	17.48
26年3月期第2四半期	16.10	—

平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	18,231	12,180	66.8	227.80
26年3月期	16,816	11,921	70.9	223.02

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 12,180百万円 26年3月期 11,921百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	13.00	13.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	23.0	3,800	26.4	3,790	24.6	2,274	20.8	42.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	53,593,100株	26年3月期	53,593,100株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	122,400株	26年3月期	138,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	53,464,818株	26年3月期2Q	53,455,100株

平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	9
(株主資本等関係)	9
(セグメント情報等)	10
(1株当たり情報)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、スマートフォンの普及に伴い急成長を遂げたスマートフォンゲーム市場は、家庭用ゲーム市場の2倍以上の規模に拡大したともいわれ、成長期から成熟期へと差し掛かっております。また、世界最大規模にもなる日本市場には、海外企業からの注目も高く、海外コンテンツの参入も相次ぎ、益々競争が激化しております。一方で、国内市場の成長が鈍化する中、国内企業による海外市場の開拓にも注目が集まっております。家庭用ゲーム市場におきましては、国内ソフト市場は依然として厳しいものの、PlayStation 4やXbox Oneなどの高性能ハードの登場とともに、ウェアラブル端末やバーチャルリアリティを用いた新しいゲーム分野の可能性に注目が集まり、東京ゲームショウ2014は過去最大の出展社数と歴代2位の来場者数となりました。アーケードゲーム市場につきましては、キッズ向けの様々なゲームの登場や、ゲーム・アニメと連動した筐体が増加する中、一部の強力なコンテンツにより寡占状態となっております。音楽・映像分野におきましては、ソフト市場は依然として厳しい環境下にあります。ライブエンターテインメントビジネスの需要は益々高まっており、海外顧客の誘致や海外進出にも期待が寄せられております。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）の業績は、売上高11,387百万円（前年同期比18.8%増）、営業利益1,449百万円（前年同期比6.2%増）、経常利益1,514百万円（前年同期比9.3%増）、四半期純利益934百万円（前年同期比8.6%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①オンライン事業

当事業のPCブラウザゲームにおきましては、サービス開始から5年を経過した「ブラウザ三国志」が堅調に推移いたしました。また、モバイルブラウザゲームにおきましては、サービス開始から2年を経過した「一騎当千バーストファイト」が堅調に推移したほか、サービス開始から1年を迎えた「ハイスクールD×D」も順調に拡大いたしました。その他の既存タイトルにつきましても、市場がスマートフォンアプリへシフトする中、当社のPC・モバイルブラウザゲームは、底堅く推移しております。ネイティブアプリに関しましては、平成25年12月にリリースいたしました「剣と魔法のログレス いにしえの女神」が好調に売り上げを伸ばしており、当期の収益に大きく貢献いたしました。また、9月から開始した同タイトル初のTVCMも奏功し、累計ダウンロード数は400万件を突破するとともに、売上成長が加速しております。この他、新規タイトルといたしましては、当社初となるPS Vita向けフリートゥプレイゲーム「ハイスクールD×D NEW FIGHT」のサービスを8月より開始するとともに、下期のリリースに向けた複数のネイティブアプリの開発に取り組んでまいりました。一方で、リリースに向けて長期に渡り開発に取り組んでまいりました「ブラウザエヴァンゲリオン」につきましても、ゲーム性や将来の収益性等を総合的に判断した結果、開発中止を決定いたしました。これを含む将来の収益性が不透明な4タイトル（内、第1四半期に3タイトル）の開発を中止し、それに伴う仕掛開発費の一括償却を行いました。引き続き、好調なタイトルを更に育成、強化しながら、新規タイトルの開発も厳選したものにリソースを集中させてまいります。

この結果、売上高は6,117百万円（前年同期比54.5%増）、営業利益は1,117百万円（前年同期比411.5%増）となりました。

#### ②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門につきましては、8月7日に「閃乱カグラ2-真紅-（ニンテンドー3DS）」、9月25日に「幕末Rock 超魂（ウルトラソウル）（PS Vita/PSP）」、10月2日に「禁忌のマグナ（ニンテンドー3DS）」（出荷基準につき当期計上）の新作3タイトルを発売いたしました（前年同期は新作1タイトル）、いずれも計画未達となりました。

アミューズメント部門につきましては、新たなキッズアミューズメント筐体として「パズドラZ テイマーバトル」のサービスを6月26日より開始いたしました。既存の「ポケモンレタ」につきましても、底堅く推移しているものの、競合環境の激化もあり、計画を下回る結果となりました。

この結果、売上高は3,430百万円（前年同期比8.9%減）、営業利益は411百万円（前年同期比67.7%減）となりました。

③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、プリキュアシリーズのTVアニメ「ハピネスチャージプリキュア！」の音楽・映像商品化を行ったほか、7月より当社主幹事TVアニメ作品「幕末Rock」、「東京喰種トーキョーグール」を放送いたしました。

ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計68公演分の実績を計上し、関連DVDを2作品発売いたしました。「ミュージカル『薄桜鬼』」においては合計19公演分の実績を計上し、関連DVDを2作品発売いたしました。「舞台『弱虫ペダル』」については、関連DVDを1作品発売いたしました。当期計上の全ての公演において、チケットがほぼ完売したことに加えて、関連DVDが新作・旧作ともに好調に推移し、当事業の収益に貢献いたしました。

この結果、売上高は1,844百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は425百万円（前年同期比21.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産18,231百万円（前連結会計年度末比1,414百万円増）、負債6,051百万円（前連結会計年度末比1,155百万円増）、純資産12,180百万円（前連結会計年度末比259百万円増）となりました。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、受取手形及び売掛金の増加等により15,322百万円となり、前連結会計年度末に比べ738百万円増加いたしました。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、有形固定資産の増加等により2,909百万円となり、前連結会計年度末に比べ675百万円増加いたしました。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、借入金の減少、未払金の増加等により5,990百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,149百万円増加いたしました。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、長期借入金の減少、資産除去債務の増加等により60百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の累積が前連結会計年度末の配当による剰余金の減少を上回った結果、12,180百万円となり、前連結会計年度末に比べ259百万円増加いたしました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ993百万円減少し、7,127百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における資金の増減は、営業活動による収入1,387百万円（前年同期比552百万円減）があったものの、投資活動による支出が1,579百万円（前年同期比941百万円増）、財務活動による支出が870百万円（前年同期比78百万円増）であったことにより、993百万円の資金の減少（前年同四半期連結累計期間は532百万円の増加）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、売上債権の増加760百万円、法人税等の支払額716百万円があったものの、税金等調整前四半期純利益1,504百万円、減価償却費478百万円、未払金の増加1,015百万円等の要因により、1,387百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、有形固定資産の取得による支出669百万円、無形固定資産の取得による支出610百万円、定期預金の預入による支出1,000百万円があったものの、定期預金の払戻による収入700百万円等の要因により、1,579百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、短期借入金及び長期借入金の純減少187百万円、配当金の支払額694百万円等により、870百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月9日発表の業績予想を変更していません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,020	8,327
受取手形及び売掛金	3,505	4,415
電子記録債権	59	31
有価証券	72	76
たな卸資産	※1 1,472	※1 1,707
その他	471	783
貸倒引当金	△18	△20
流動資産合計	14,583	15,322
固定資産		
有形固定資産	533	966
無形固定資産		
のれん	137	119
その他	1,020	996
無形固定資産合計	1,157	1,116
投資その他の資産	661	837
貸倒引当金	△120	△11
固定資産合計	2,233	2,909
資産合計	16,816	18,231
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	757	777
短期借入金	585	416
1年内返済予定の長期借入金	23	15
未払金	1,426	2,437
未払印税	911	988
未払法人税等	705	557
引当金	28	—
その他	401	798
流動負債合計	4,840	5,990
固定負債		
長期借入金	40	32
資産除去債務	14	26
その他	—	1
固定負債合計	54	60
負債合計	4,895	6,051
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,128	1,128
資本剰余金	6,373	6,382
利益剰余金	4,440	4,680
自己株式	△27	△24
株主資本合計	11,914	12,166
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	6	14
その他の包括利益累計額合計	6	14
純資産合計	11,921	12,180
負債純資産合計	16,816	18,231

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	9,585	11,387
売上原価	4,903	5,307
売上総利益	4,682	6,079
販売費及び一般管理費	※1 3,317	※1 4,630
営業利益	1,365	1,449
営業外収益		
受取利息	1	1
為替差益	18	61
受取賃貸料	—	3
その他	4	3
営業外収益合計	24	69
営業外費用		
支払利息	4	4
その他	0	0
営業外費用合計	4	4
経常利益	1,385	1,514
特別利益		
投資有価証券売却益	※2 37	—
特別利益合計	37	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	10
和解金	※3 49	—
特別損失合計	49	10
税金等調整前四半期純利益	1,372	1,504
法人税等	512	569
少数株主損益調整前四半期純利益	860	934
少数株主利益	—	—
四半期純利益	860	934
少数株主利益	—	—
少数株主損益調整前四半期純利益	860	934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△0
為替換算調整勘定	5	7
持分法適用会社に対する持分相当額	3	—
その他の包括利益合計	8	7
四半期包括利益	869	942
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	869	942
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,372	1,504
減価償却費	547	478
映像コンテンツ償却額	109	69
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4	△107
受取利息	△1	△1
支払利息	4	4
売上債権の増減額 (△は増加)	507	△760
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△390	△298
仕入債務の増減額 (△は減少)	37	16
投資有価証券売却損益 (△は益)	△37	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	10
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△109	△13
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△17	△14
和解金	49	—
未払金の増減額 (△は減少)	△7	1,015
未払印税の増減額 (△は減少)	△0	73
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△8	28
その他	133	101
小計	2,194	2,106
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△201	△716
和解金の支払額	△49	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,940	1,387
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△117	△669
投資有価証券の売却による収入	133	—
無形固定資産の取得による支出	△497	△610
定期預金の預入による支出	△300	△1,000
定期預金の払戻による収入	200	700
事業譲受による支出	※2 △56	—
敷金及び保証金の差入による支出	△2	△0
敷金及び保証金の回収による収入	1	0
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△637	△1,579
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△26	△171
長期借入金の返済による支出	△96	△16
配当金の支払額	△668	△694
ストックオプションの行使による収入	—	11
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△791	△870
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	69
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	532	△993
現金及び現金同等物の期首残高	5,723	8,120
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 6,256	※1 7,127

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
商品及び製品	41百万円	156百万円
仕掛品	1,412	1,378
映像コンテンツ	—	117
原材料及び貯蔵品	18	54

2 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	19百万円	17百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
広告宣伝費	593百万円	914百万円
支払手数料	1,291	2,046
従業員給料及び手当	364	405
貸倒引当金繰入額	21	1

※2 投資有価証券売却益の内容は次のとおりであります。

当社が保有するその他有価証券の一部を平成25年9月に売却したことによるものであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
株式会社マイクロキャビン株式	37百万円	—百万円

※3 和解金の内容は次のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

Checkpoint Studios Inc. との間で生じていた係争に関して和解が成立したことから、同社に支払った和解金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	7,756百万円	8,327百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,500	△1,200
現金及び現金同等物	6,256	7,127

※2 事業譲受により増加した資産及び負債の主な内訳は次のとおりです。

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

Index Digital Media, Inc. オンラインゲーム事業の譲受

固定資産 1百万円

のれん 54

取得価額 56

Index Digital Media, Inc. オンラインゲーム事業の

現金及び現金同等物 —

差引：事業譲受による支出 56

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

配当金支払額

平成25年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 668百万円     |
| ② 1株当たり配当額 | 1,250円00銭  |
| ③ 基準日      | 平成25年3月31日 |
| ④ 効力発生日    | 平成25年6月7日  |
| ⑤ 配当の原資    | 利益剰余金      |

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

配当金支払額

平成26年5月9日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 694百万円     |
| ② 1株当たり配当額 | 13円00銭     |
| ③ 基準日      | 平成26年3月31日 |
| ④ 効力発生日    | 平成26年6月9日  |
| ⑤ 配当の原資    | 利益剰余金      |

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額には当該株式分割後の実際の配当額を記載しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,960	3,763	1,860	9,585	—	9,585
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	0	0	△0	—
計	3,960	3,763	1,861	9,586	△0	9,585
セグメント利益	218	1,273	350	1,842	△477	1,365

(注) 1 セグメント利益の調整額△477百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,117	3,430	1,839	11,387	—	11,387
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	5	5	△5	—
計	6,117	3,430	1,844	11,392	△5	11,387
セグメント利益	1,117	411	425	1,954	△505	1,449

(注) 1 セグメント利益の調整額△505百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	16円10銭	17円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	860	934
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	860	934
普通株式の期中平均株式数(株)	53,455,100	53,464,818
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	17円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	1,343
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 1 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。

2 平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。